

平成25年度のJA全青協ポリシーブックの取り組み総括について

平成26年3月14日

1. JA全青協ポリシーブック2013の作成について

- 項目について、各都道府県青年組織が作成したポリシーブックの内容を基に決定
- 内容について、各都道府県青年組織が作成したポリシーブックおよびJA全青協専門部会（水田、青果、畜酪、都市農業）毎に作成したポリシーブックを基に作成
- 検討経過について、JA全青協理事会で素案を作成し、委員長・事務局合同会議にて協議・決定
- JA全青協として、初めて具体的な課題と対応方向を整理したポリシーブックとなった。
- すべての都道府県青年組織でポリシーブックが作成されておらず、27都道府県のポリシーブックを基に作成
- 素案の作成がJA全青協執行部のみとなり、協議の場が委員長・事務局合同会議であり、議論が深まらなかった。
- 内容の決定が5月、製本が6月となった。

2. ポリシーブックの活用について

(1) 主な活用先

① 国会議員等

- 農水大臣・副大臣・政務官との意見交換
- 内閣府政務官との意見交換
- 自民党農林部会との定期的な意見交換
- 自民党農林部会とのパネルディスカッション
- 民主党青年委員会との意見交換
- 国会議員との意見交換

② 行政

- 農林水産省幹部職員との意見交換

③ JAグループ

- JA全中理事会に提出
- JA全農との品目別の意見交換
- JA全農若手職員との意見交換

④ その他

(2) 活用方法

- 具体的な課題と対応方向を文書化したことから、主張を明確にしたうえで意見交換を実施することができた。
- 意見交換の時間を十分に取れず、具体的な課題にかかる議論が深まらない場合があった。
- ポリシーブックに整理した具体的な対応方向にかかる要請・意見交換が十分にできない場合があった。
- 活用先が国・行政やJAグループ内部に集中し、他団体との連携が不十分であった。

3. ポリシーブックの取り組みの総括について

(1) 全体

- ポリシーブックの導入が、課題解決力、組織運営および政策提言の強化につながり、青年部活動の充実に大きく貢献した。
- TPPへの対応について、JA全青協および青年部盟友の考え方を国会議員を中心に広く周知することができ、農林水産品の重要品目の関税を除外もしくは再協議するなどの国会・自民党決議を遵守した交渉を継続させていることに寄与した。
- 農水省大臣・副大臣との意見交換、自民党農林部会との定期的な意見交換、多くの与野党国会議員との意見交換、農水省幹部職員との意見交換を実施することができ、直接青年農業者の声を国政に届けることができた。
- ポリシーブックの課題がどれも重要かつ一朝一夕に解決できないものであり、目に見える成果が十分に挙げられなかった。
課題解決に向けた具体的取り組みを拡充させ、課題解決に向けたプロセスにかかる成果が確認できるような内容とするなどの工夫が求められる。

(2) JA全青協ポリシーブック2013の項目別の活用について

別紙のとおり。

以上

J A全青協ポリシーブック2013の項目別の活用について

1. TPP参加問題 <重点実施事項>

- 3月に安倍首相が唐突に交渉参加表明をしたことを受け、J A全青協としてポリシーブックを活用した政府・与党・国会議員への要請や街宣活動、国会議員会館前での座り込みや首相官邸前での抗議行動、パネルディスカッションなど、TPP反対にかかる活動を精力的に展開した。
- これらの活動により、政府は農林水産品の重要品目の関税を除外もしくは再協議するなどの国会・自民党決議を遵守した交渉を継続しており、安易な妥結への強力な抑止力となった。
- TPP交渉は依然として予断を許さない状況にあり、引き続き、ポリシーブックの活用やJ Aグループと連携したTPPにかかる要請活動を精力的に展開していく。

2. 農業政策全般

- 農水省大臣・副大臣との意見交換、自民党農林部会との定期的な意見交換、農水省幹部職員との意見交換など、直接青年農業者の声を国政に届ける機会を多く持つことができた。
- 「政権交代による農業政策の転換や所得補償制度の未法制化により長期的な営農計画が立てづらい」ことを課題に掲げ、「現場の『生の声』を聞いていただく」よう提案したにも関わらず、日本型直接支払制度および経営所得安定対策が現場の現状を十分に反映しない形で、あるべき政策決定プロセスを経ないまま拙速に決定されたことは不本意な結果となった。
- 引き続き、現場の現状を粘り強く聞いていただくようポリシーブックを活用した要請を継続するとともに、生産者にわかりやすい政策・制度の実現および26年4月に実施される消費税増税への対応について要請していく。

3. 作目別の課題 <重点実施事項>

- ポリシーブックに「作目別の課題」を導入することにより、J A全青協の各専門部会の取り組みの意義や目的が明確になり、各専門部会の活動の充実に貢献した。

- J A全青協の各専門部会が課題と解決策を明確にしたうえで、政府与党、農水省、J A全中・全農の担当部署との意見交換を実施し、直接青年農業者の現場の課題を訴えることができた。
- 水田農業について、飼料用米の面積に応じた助成になっていることの課題が収量に応じた助成に改善された国の考え方は、ポリシーブックの活用の具体的な成果と言える。

一方で、新たな経営所得安定対策の決定プロセスおよび内容は現場の現状が十分に反映されたとは言い難く、引き続き制度の改善および法制化に向けた要請活動を展開していく必要がある。
- 青果について、日本型直接支払制度の創設により、水田農業だけではなく畑地に交付金が支給されることになったことへの考え方は、ポリシーブックの活用の具体的な成果と言える。

一方で、支援策としては十分とは言い難く、引き続き制度の改善および法制化に向けた要請活動を展開していく必要がある。
- 畜産・酪農について、現場等における取り組みの結果、口蹄疫や鳥インフルエンザといった重篤な感染症が発生しなかった。引き続き構築連携の強化や農業所得向上に向けた取り組みを展開していく必要がある。
- 都市農業について、自民党都市農業研究会と都市農業の現場で意見交換を実現し、現場の現状を直接国政に訴えることが出来たことはポリシーブックの活用の具体的な成果と言える。

引き続き相続税等納税猶予制度の運用改善などに向けた要請を展開していく必要がある。

4. 農業経営

- 生産コストの削減および販売価格の向上が農業経営の向上の安定化にとって非常に重要であり、J A全青協の各専門部会から農水省幹部職員、J A全中・全農の担当部署に対し、直接青年農業者の現場の課題を訴えることができた。
- 今後は、ポリシーブック等を活用した個人・青年部としての取り組み、J Aと一体となった取り組みの一層の強化が求められる。
- とりわけ、農業政策は規模拡大、競争力強化に力を入れており、「担い手」の目線に立った課題の確認と課題解決に向けた取り組みを強化する必要がある。

- また、政府は6次産業化の取り組みを柱に所得倍増を計画しており、これへの対応についても強化していく必要がある。
- 一方、鳥獣害被害への対応については、行政・JAも含めた地域ぐるみの対策が求められており、取り組みの再編・工夫を実施する。

5. 後継者・新規就農対策

- 青年就農給付金の交付にかかる弾力的運用が一部認められるなど、ポリシーブックの活用の具体的な成果が確認できた。
- 今後は、親元就農にかかるさらなる弾力的運用の要請や、行政・JAと連携した新規就農対策など、さらなる取り組みを実施する。

6. 地域活性化

- 担い手不足、高齢化に伴う耕作放棄地の増加、過疎化による地域の活力の低下などの課題に対し、中長期的な対応が求められる。一因である鳥獣害被害への対策も含め、行政・JAと連携した取り組みを継続していく。
- 地域と農業のかかわり・農業の多面的機能については、「地産地消」と「食農教育」に区分し、取り組みの選択と集中をはかる。

7. 食と農の理解促進

- 25年度より、JA全青協に「食農部会」を新設し、各単位組織の取り組みのアンケート調査を実施するなど、食と農の理解促進にかかる取り組みの強化を行なった。
- 今年度はTPP、日本型直接支払制度等にかかる対応を優先せざるを得なかったが、今後は教育関係、消費者団体等との連携など、食と農の理解促進に向けた取り組みを強化していく。
- 消費拡大に向けた農畜産物のPRについては、「販売力強化」と「地産地消」に区分し、取り組みの集中と選択をはかる。

8. 食の安全・安心確保対策

- 今年度は食品偽装、漬物の食中事故などにより、消費者の食に対する不信感が増した。これへの対応として、引き続き、JA・行政と連携した安全・安心な農畜産物づくりに取り組んでいく。

9. 震災復興

- 青年部による復旧・復興支援として、絆プロジェクトの取り組みや仮設住宅訪問などに精力的に取り組んだ。
- 一方、震災・原発事故から3年が経過しようとしているにも関わらず、未だに営農が再開できず、放射性物質による出荷制限や風評被害などの影響が甚大である。今後も継続して震災復興に取り組んでいく。

10. 青年組織強化

- 青年組織強化として、組織数・盟友数の拡大、結集率の向上をポリシーブックの重点実施事項と位置付け、特に未組織・未加盟組織への対策を精力的に実施した。一部の県域において、組織数の拡大を実現し、ポリシーブックの活用が確認できた。引き続き青年組織強化に精力的に取り組んでいく。

以 上